聖霊降臨後第13主日のミサ固有唱

信仰と洗礼によって、われらは神の契約にあずかる者となった。しかし、未だわれらは世間にひきずられ、たえずおびやかされている。神が、われらをあわれみ、われらを見すて給わぬようにと祈る。〈入祭文、昇階唱〉

神が、われらのうちに、信望愛の徳を強め<集祷文>われらをますます天的なものとする天のパンを 与え給うように。<聖体拝領唱>

詩編 73.20,19,23

RESPICE, Dómine, in testaméntum tuum et ánimas páuperum tuórum ne derelínquas in finem: exsúrge, Dómine, et júdica causam tuam, et ne obliviscáris voces quæréntium te.

Ps. 73. 1. Ut quid, Deus, repulísti in finem: irátus est furor tuus super oves páscuæ tuæ?

V. Gloria Patri.

OMNÍPOTENS sempitérne Deus, da nobis fídei, spei, et caritátis augméntum: et, ut mereámur ássequi quod promíttis, fac nos amáre quod præcipis. Per Dóminum

ガラテヤ 3.16-22

FRATRES: Abrahæ dictæ sunt promissiónes et sémini ejus. Non dicit: Et semínibus, quasi in multis; sed quasi in uno: Et sémini tuo, qui est Christus. Hoc autem dico: testaméntum confirmátum a Deo, quæ quadringéntos et trigínta annos facta est lex, non irrítum facit ad evacuándam promissiónem. Nam si ex heréditas, jam non ex promissiónes. Abrahæ autem per repromissiónem donávit Deus. Quid ígitur lex? Propter transgressiónes pósita est donec veníret semen, cui promíserat, ordináta

入祭文

主よ、ご契約を思い出し、貧しい者の霊魂を永久に 忘れ給うな。主よ起って、御身のことを審き、御身 を探し求める者の叫びを聞きたまえ。

神よ、何故われらを永遠に見捨て給うのか。何故、 お怒りを、主の牧場の羊に向け給うのか。

願わくは、聖父……

集祷文

全能永遠の神よ、われらのうちに、信・望・愛の徳 を増し、主の約束したもうたものを我らに与え給う よう、われらに主を愛させ給え。

書簡

兄弟たち、約束はアブラハムとその子孫とになされました。多くの子孫を指すように「子孫たちとに」とは言われず、ただ一人を指すように「お前のことでするとに」と言われていまするところはこうでするところはこうでかった。これは対し、そのかま産産した。とはない、律法によるものではありませんが、神はなってに持ってそのでははありませんが、神はなっていまるものです。では律法とは何ですか。それは約ったものではかられたもので、み使いたちを通したけかえられたもので、み使いたちを通したけかえられたもので、み使いたちを通したけかえられたもので、み使いたちを通したちゃんかに付けかえられたもので、み使いたちを通したちゃんかに付けかえられたもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちを通したもので、み使いたちをもので、み使いたちをもので、み使いたちをもので、み使いたちを追したもので、み使いたちを追したかによりにないませんが、おいまにないます。

per Angelos in manu mediatóris. Mediátor autem uníus non est: Deus autem unus est. Lex ergo advérsus promíssa Dei? Absit. Si enim data esset lex, quæ posset vivificáre, vere ex lege esset justítia. Sed conclúsit Scriptúra ómnia sub peccáto, ut promíssio ex fide Jesu Christi darétur credéntibus.

て、仲介者の手を経て定められました。仲介者は、ひとりでことを行う者にはいりません。約束の場合、神はひとりでことをなされたのです。それでは、律法は神の約束に反するものなのでしょうか。決してそうではありません。万一、人を生かすことのさるは、確かに律法によったことでしょう。しかし、聖書はすべて者が罪の虜になっていることを示しています。それは約束が、イエス・キリストの信仰によって、信じる者に与えられるようになるためでした。

詩編 73.20,19,23

Réspice, Dómine, in testaméntum tuum: et ánimas páuperum tuórum ne obliviscáris in finem. V. Exsúrge, Dómine, et júdica causam tuam: memor esto oppróbrii servórum tuórum.

詩編 89.1

ALLELÚIA, allelúia. V. Dómine, refúgium factus es nobis a generatióne et progénie. Allelúia

ルカ 17.11-19

In illo témpore: Dum iret Jesus in Jerúsalem, transíbat per médiam Samaríam et Galilæam. Et cum ingrederétur quoddam castéllum, occurrérunt ei decem viri leprósi qui stetérunt a longe: et levavérunt vocem, dicéntes: Jesu præcéptor, miserére nostri. Quos ut vidit, dixit: Ite, osténdite vos sacerdótibus. Et factum est, dum irent, mundáti sunt. Unus autem ex illis, ut vidit quia mundátus est, regréssus est, cum magna voce magníficans Deum, et cécidit in fáciem ante pedes

昇階唱

主よ、ご契約を思い出し、貧しい者の霊魂を永久に 忘れたもうな。主よ、起って、御身のことを審き、 下僕らに向けられる侮りを思い出したまえ。

アレルヤ唱

アレルヤ、アレルヤ。

主よ、主は世々に、われらの避難所となり給うた。 アレルヤ。

聖福音

その時、イエスはエルサレムへの旅の途中、サマリカヤとの境をお通りになった。そして、るけにお入りになると、重い皮膚病を患ってに立ると、重い皮膚病を患った。彼らは遠くの男が待ち受けていた。彼らは流ください」とはならを見て、「行って、祭司たちは体くがされたらを見て、「行って、祭司たちは行って、祭司たちは行って、祭司たちは行って、祭司たちは行うができ、でき、彼らは、自分ではない」と仰せになった。さて、そのうちの一人は、自分で神をされたことに気づき、引き返して来て、大声ではなかった。そこで、イエスの足元にひれ伏して感謝したのはサマリア人であった。そこで、イエスがよい。

ejus, grátias agens: et hic erat Samaritánus. Respóndens autem Jesus, dixit: Nonne decem mundáti sunt? et novem ubi sunt? Non est invéntus qui redíret et daret glóriam Deo, nisi hic alienígena. Et ait illi: Surge, vade; quia fides tua te salvum fecit.

ほかの九人はどこにいるのか。神をほめたたえるために戻ってきたのは、この一人の他国の者のほかに、誰もいないのか」それから、イエスはその人に仰せになった、「立って、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」。

詩編 30.15,16

IN te sperávi, Dómine; dixi: Tu es Deus meus, in mánibus tuis témpora mea.

PROPITIÁRE, Dómine, pópulo tuo, propitiáre munéribus: ut hac oblatióne placátus, et indulgéntiam nobis tríbuas, et postuláta concédas. Per Dóminum nostrum

VERE dignum et justum est, æquum et salutáre, nos tibi semper et ubique grátias ágere, Dómine sancte, Pater omnípotens, ætérne Deus: Qui cum unigénito Fílio tuo, et Spíritu Sancto, unus es Deus, unus es Dóminus: non in unius singularitáte persónæ, sed in unius Trinitáte substántiæ. Quod enim de tua glória, revelánte te, crédimus, hoc de Fílio tuo, hoc de Spiritu Sancto, sine differéntia discretiónis sentímus. Ut in confessióne veræ, sempiternæque Deitátis, et in persónis propríetas et in esséntia únitas, et in majestáte adorétur æquálitas. Quam laudant Angelí, atque Archángeli, Chérubim quoque Séraphim: qui non cessant clamáre quotidíe, una voce dicéntes:

智恵 16.20

聖体拝領唱

奉献文

主よ、私は主に希望し奉る。主こそ私の神であり、 私の生命は主の手中にある、と私は言おう。

密唱

主よ、願わくは、御民をいつくしみ、御身の供物を 受け入れたまえ。これによって御心をなだめられ、 われらに許しを与え、われらの願いを聞きとどめ給 わんことを。神として……。

叙唱 (三位一体)

聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつも、さにても、主に感謝をささげるのは、実にであり、我らの義務と救いである。御身は、御独り子と聖霊ともに、御身は、唯一の主にてまします。かれらは、御身の啓示にもは、一体にてまします。かれらは、御身の啓示にもとは、御身の御栄光につなけ、道をの神をたいてもともに等しく、差別なくたとといてもとは、真の永遠の神をたたづけるの御稜威の平等性を賛美し奉る。天使、大天使も熾天使も、これをほめたたえ、極まりなく声を合わせて歌う。

PANEM de cælo dedísti nobis, Dómine, habéntem omne delectaméntum, et omnem sapórem suavitátis.

主よ、御身がわれらに与え給うたのは、天のパンで ある。そこには、すべての楽しみと甘味とがある。

聖体拝領後の文

SUMPTIS, Dómine, cæléstibus sacraméntis: ad redemptiónis ætérnæ, quæsumus, proficiámus augméntum. Per Dóminum nostrum.

主よ、願わくは、天の秘蹟を拝領し奉った我らを、 永遠の助かりの道に進ませ給わんことを。神として

※日本語訳は福音書及び書簡を除き、バルバロ『毎日のミサ典書』より引用。福音書及び書簡の日本語訳はフランシスコ会聖書研究所訳 注『聖書』(2011年)より引用。

> またのご参列を楽しみに待っております。 ウナ・ヴォーチェ・ジャパン一同(Mail:info@uvj.jp URL: http://uvj.jp)